【ATC フィロソフィ㉖】

こんにちは、アークテックコム株式会社で、技術書類の作成と翻訳を行っています豊原 信です。

Tel：050-6864-6201
Fax：050-6864-6202
E-mail：
m.toyohara@arcteccom.jp

一日を懸命に生きる

今月は中村天風の「真人生の創造」の“日常の刹那刹那が修行”にある文章の紹介と、弊社のフィロソフィ（考え方）についてお話します。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

日本の哲人と言われている中村天風が、アメリカの雑誌「リーダーズ・ダイジェスト」に、自分の考え方と同じ記事を見つけ感動して訳した文章です。

【 How to Enjoy the Happiest Day of Your Life.

我々は 1 日だけならどんなことでもできるじゃないか。今日だけでいいから。

命のことを怖れないで考えろ。生命の影にすぎない死を怖れないでいようじゃないか。

それから、幸福であることも何も怖がらなくてもいい。

なんでもいいから美しいことを楽しむことと、最上のものを信じることに勇敢に努力しようじゃないか。今日だけでいいから。昨日と明日を忘れて。

人生のすべての問題を一挙に解決しようなどと考えないで、ただ 1 日だけを楽しく生きようよ。

昔の哲人が言ったじゃないか、人間というものは自分の決心一つでもってどの程度にでも幸せになれるもんだと。

だから、今日だけ幸福になることを思おうじゃないか。

そうして現実の事柄、例えば家庭だとか仕事、それから運命なんていうものには、逃げないでもってこっちから飛び込んで行って、即応しながら生きていくようにしようじゃないか。

自分に都合のいいようにしようなんていうことは大変な恐ろしい注文だ。

だが、もし我々が自分の欲するところのものを持つことができなかったならば、それで悩むよりも、自分の持てるものを好きになること、なれるんだからそうしようじゃないか。

ただ、今日だけでいいんだ。今日だけでいいから気持ちよく、それでものわかりよく、快活に、そして情け深い人間になろうじゃないか。

自分の最善を尽くして、穏やかにきれいな服装で行動して、人々のすることを褒めて、どんなことがあっても、人々のなさったことを支配しないようにしようじゃないか。

そうしてもしも、人々に落ち度があったらば、それを許すことよりも先に忘れてやろうじゃないか。】

本当にいい言葉ですね。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

弊社のフィロソフィ（考え方）の続きです。中村天風の言葉には及びませんが、読んでやってください。

渦の中心になれ

仕事のテーマ即ち課題が決まったら、ポイントを捉え目的と意義を明確にします。更に具体的な目標を設定して、皆で共有します。しかし多くの仕事は自分１人ではできませんから、自ら燃えて上司、部下をはじめ、周囲にいる人々と一緒に協力しあって行うのが仕事です。その場合には、必ず自分から積極的に仕事を求めて働きかけ、周囲にいる人々が自然に協力してくれるような状態にしていかなければなりません。これが「渦の中心で仕事をする」ということです。

会社にはあちらこちらで仕事の渦が巻いています。気がつくと他の人が中心にいて、自分はそのまわりを回るだけで、本当の仕事の喜びを味わうことができないときがあります。自分が渦の中心になり、積極的に周囲を巻き込んで仕事をしていかなければなりません。

この「渦の中心になれ」ということを常に意識して活動しましょう。

命令でもって人を動かすのではありません。問題意識を提示すれば自然に人がそこに集まり、周りに渦をつくっていきます。そのような社風が必要なのです。

例えば、「今年は売上を倍にしよう」というテーマがあるとします。まだ入社したばかりの若い社員であっても、「課長、売上を倍にすると社長が言っておられますが、一度みんなで集まって、どうすれば倍にできるか検討してみませんか」と言い出す者があれば、もうその人間がリーダーなのです。いい恰好をしたいからというのではなく、目的意識を持っているからそうする、こうした渦の中心になれる人間が会社の中にいなければなりません。渦をつくっていく人になりましょう。会社が発展する基になります。

率先垂範で職場を活性化

仕事をする上で、部下やまわりの人々の協力を得るためには、率先垂範でなければなりません。人の嫌がるような仕事も真っ先に取り組んでいく姿勢が必要です。

どんなに多くの、どんなに美しい言葉を並び立てても、行動が伴わなければ人の心を捉えることはできません。自分が他の人にして欲しいと思うことを、自ら真っ先に行動で示すことによって、まわりの人々もついてくるのです。

率先垂範するには勇気と信念がいりますが、これを常に心がけ実行することによって、自らを高めていくこともできるのです。上に立つ人はもちろんのこと、すべての人が率先垂範する職場風土をつくりあげなければなりません。

リーダーたる者、自ら現場で仕事をしなければなりません。その後ろ姿で部下を教育するのがリーダーです。教育の基本になっています。

しかし、難しいのはリーダーが先頭に立つということは本当に理想的なのだろうか、という考えもあります。

どちらにしても、その時の目標によります。リーダーが現場で率先垂範して指図すべき課題なのか、それとも部下に任せて後方から指示を出せば達成できる課題なのかで違ってきます。必ず考えられる全てのリスクを考え考慮して計画を練る必要があります。

不可能を可能にする

困難な状況に遭遇しても、

諦めてそこから逃げてはいけません。追い込まれ、もがき苦しんでいる中で、「何としても」という信念と気魄があると、ふだん見過ごしていた現象にもハッと気づき、解決の糸口が見つけられるものです。

火事場の馬鹿力という言葉があるように、切羽詰まった状況の中で、真摯な態度で物事にぶつかっていくことによって、人は普段では考えられないような力を発揮することができます。

人間は得てして易きに流れてしまいがちですが、常に信念と克己心で自らをコントロールすることで、自分でも驚くような成果を生み出すことができるのです。

このことは、不況時においては、特に心にとどめなければならないと思います。問題を解決していくにあたり、物事の本質を捉えるために、精神を集中して自らを追い込むよう心がけます。そこにある原理がどのように機能しているかを掴まえます。そのためには厳しい現実から逃避するのではなく、自分から問題に対し、真正面からぶつかっていくような気持ちで、困難の中に自分自身を追い込んでいくのです。

一生懸命に出し尽くし、「ここまでやったのだから」と達観して、後は天命を待つ。つまり、安心立命の境地に至るまで、自分を追い込むのです。

※2025 年 05 月号に続きます。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

豊原 信